

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	もりもりの森 森のにじ			
○保護者評価実施期間	2024年 4月 1日 ～ 2025年 2月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	17
○従業者評価実施期間	2024年 4月 1日 ～ 2025年 2月 28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 4日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	資格保持者が障がい特性を理解したうえで、個々に合わせた適切な支援が行えるように日々職員間で協議しながら療育活動を行っている。	ボックスや写真、絵カードを使用して、視覚支援を多く取り入れている。スケジュールボードを個別で見せて見通しを持って行動することができるように作成している。	個々に合わせたボックスカードなど、より個性性の高いコミュニケーションツールの活用を検討する。構造化されたわかりやすい空間づくりを心掛けていく。
2	自然を取り入れた療育活動の施行	会社が所有する森で安全面に配慮しながら自然遊びを行い、運動面、感覚面、コミュニケーション面の発達などを促していけるようフィールドワークやアスレチック遊具の設置、焼き芋などのイベント等様々な取り組みを行っている。	年に数回のイベントを行う他、地域とのつながりが持てるように図書館などを活用していく。
3	システムを活用して、保護者との連絡や相談、情報共有をこまめに行うことができる	活動の様子をコメントだけではなく、写真を添付してよりわかりやすく伝えていくとともに、疑問や悩みに早急に対応していけるよう個別連絡でのやり取りを丁寧に行っている。	活動予定を事前に周知できるようにHUGを活用していく。土曜や長期休暇中の活動内容や外出先やイベントを月単位で伝えていくことで、より多くの利用希望者を募れるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	室内の収納スペースやトイレスペースの確保が不十分	紙パンツ使用の児童が多く、排泄が自立していない為、着替えのスペースとトイレトレーニング時のプライバシーの確保が必要。また、トイレの数が少ないため、使用したい時間が重なってしまうと待ち時間が長くなってしまう。	トイレの増設工事。着替えスペースの十分な確保。運動器具や製作活動用具をしまえる倉庫の増設。
2	個室がないため、パニックや不穏な状況の時に静かで安全に過ごせる場所がない。	相談室が併設しているが、児童発達支援の個別対応室として使用されていたり、保護者面談に使用されていたりするため、使いたいときに空いているとは限らず、パニックの際にはタイミングが合わないで使用できない。	個室を増築するか、テント等でも可能であればプライベートスペースを確保できるようにする。
3	児童の成長に伴い、生活スペースに閉塞感が生まれてくる。	天井が低く空間が狭いため、児童の身長が伸びてきたときに運動療育を室内で行う際に頭をぶつける、器具設置場所の確保ができない等の課題が出てくる。また、車が8人乗りのため、窮屈で隣との距離が近く、トラブルにつながりやすい。	10人乗り大型車への乗り換え。天井は買えられない為、運動は課外、または園庭で行うなど工夫が必要。